

3/16 市民2人が熊本県社会福祉 功労団体等知事表彰を受賞

平成23年度熊本県社会福祉功労団体等知事表彰を、菊池佳子さん（北原）と黒田章さん（深川）の二人が受賞し、福村市長より表彰状などの伝達が行われました。この表彰は、社会福祉の向上のための長年にわたる著しい功績が評価されたものです。菊池さんは、視覚障がい者の読書環境・情報充実のための録音活動ボランティア活動が評価され、黒田さんは、熊本県身体障がい者相談員や人権教育活動が評価されました。受賞おめでとうございました。



受賞した黒田さん（左前）と菊池さん（右前）

3/16 七城のこめが4年連続 6回目の特A受賞

日本穀物検定協会により、お米の味・香りなどを総合評価した全国の食味ランキングが発表され、熊本県城北地区代表で出品された平成23年産「七城のこめ」が最高評価である特A（全国で26産地銘柄）を受賞し、その報告祝賀会が開催されました。「七城のこめ」は、平成20年度より環境に配慮した特別栽培米として生産。今回で4年連続6回目の受賞となり、生産者の「安全・安心でおいしい米づくり」の成果が実った形となりました。



「七城のこめ」生産者と関係者の皆さん

3/11 第24回泗水町少年剣道大会

第24回泗水町少年剣道大会は、泗水武道館で行われました。泗水町内の小中学校から約50人の選手が参加し、団体戦と個人戦で熱戦が繰り広げられました。

団体戦は、小中学生25人1チームで、2チームに分かれて対戦。個人戦は、学年ごとに行われました。応援に駆けつけた保護者からは大きな声援や拍手が送られていました。



受賞した小中学生の皆さん

3/4 老人クラブ芸能大会が 開催されました

第7回老人クラブ芸能大会は、菊池市文化会館で開催され、菊池市内の48クラブから約300人が参加しました。

本年は、マジックなど新しいことにも挑戦。社交ダンス、花笠音頭や3B体操など、さまざまな踊りが披露され、ほぼ満席となった客席からは大きな拍手が送られました。参加者たちは、練習の成果を存分に発揮し、若い人に負けないくらい元気な踊りを披露しました。



「島のブルース」に合わせて踊りを披露する参加者たち

3/25 自然とアートの融合! 第2回菊池市太田区竹林祭

第2回菊池市太田区竹林祭は、菊池市豊間の竹林で開催されました。会場では、たけのこ掘体験やヨガセラピー体験などがあり、シイタケなどの特産品やお餅などが販売され、大勢の来場者でにぎわいました。

また、鹿児島県鹿屋市柳谷（通称「やねだん」）から5人の画家が応援に駆け付け、竹林にさまざまな絵を展示。来場者の似顔絵を描いたり、子どもたちと一緒に絵を描いたりして楽しんでいました。



やねだんの画家と一緒に絵を描く子どもたち

3/20 水源子ども観劇会! 劇団ザパリ研究所公演

韓国済州島の劇団ザパリ研究所による人形劇「オドルトギ」公演は、きくちふるさと水源交流館で開催され、子どもや家族連れなど約70人が公演を楽しみました。「オドルトギ」とは、済州島の生活や自然を、遊び、パントマイムや歌などで表現する作品。劇団の3人が人形を自在に操り、自分たちも登場人物となって島の自然や生活をユーモラスに演じました。公演終了後、劇団員との親睦会が行われ、訪れた人たちは楽しいひと時を過ごしました。



劇団ザパリの皆さん

3/14 輪足山東福寺仏像の 修復が完了しました

県指定文化財である輪足山東福寺の仏像が修復を終えて、2年ぶりに本堂に納められました。修復した仏像は、本尊である千手観音立像（平安末期）と不動明王立像・毘沙門天立像（室町前期）の3体。白蟻被害による台座の腐食や虫食い穴が多数あり、像の状態が悪化していたため、県・市・文化財保護・芸術研究助成財団から支援を受け、今回の修復が行われました。当日は区民をはじめ、関係者によりお迎えの式典が開催されました。



修復された輪足山東福寺の仏像

3/11・20 第41回菊池郡市中学生 新人野球大会

菊池ロータリークラブ協賛第41回菊池郡市中学生新人野球大会は、菊池公園多目的グラウンドで行われ、菊池郡市内の中学校12チーム（240人）が参加し、熱戦が繰り広げられました。

なお、この大会では菊池ロータリークラブより優秀選手賞・参加賞などが送られました。

- 優勝 大津中学校
- 準優勝 菊陽中学校
- 3位 合志中学校、西合志南中学校



優勝した大津中学校の皆さん

4/1 第57回熊日菊池桜マラソン大会

第57回熊日菊池桜マラソン大会が開催され、満開の桜の下、市内外から約1,600人のランナーが健脚を競いました。

本大会は、ハーフコース・10kmコース・5kmコース・3kmコースの4コース、18部門で実施。参加した選手たちは、菊池地域振興局前をスタートし、各中継地点を折り返して、市民広場前のゴールを目指しました。各部門の優勝者は右表のとおりです。(敬称略)



満開の桜の下、スタートを切った選手たち

コース	部門	氏名	記録
ハーフ	男子(40才未満)	判田 宏一	1時間12分46秒
	男子(40歳以上)	岩木 憲一	1時間15分45秒
	女子の部	河野 文江	1時間34分1秒
10km	男子(40才未満)	島村 洸史	33分30秒
	男子(40歳以上)	白井 征男	36分48秒
	女子の部	山賀 操	41分42秒
5km	男子(40才未満)	森本 幸司	16分9秒
	男子(40歳以上)	吉村 文長	18分2秒
	女子(40歳未満)	陣川 萌	21分52秒
	女子(40歳以上)	森吉 あゆみ	21分49秒
	中学生男子	本多 優鷹	17分13秒
	中学生女子	中村 世愛	19分34秒
	小学生男子1年～3年	大鳥 遠之介	13分25秒
3km	男子(60歳以上)	細野 擴	11分36秒
	女子(60歳以上)	梁村 悦子	14分51秒
	小学生男子1年～3年	浦川 大樹	11分21秒
	小学生男子4年～6年	古川 桜子	13分21秒
	小学生女子1年～3年	藤村 光紀	12分38秒
	小学生女子4年～6年	藤村 光紀	12分38秒

4/6 熊日と菊池市教育委員会がNIE協定を締結しました

菊池市教育委員会は、児童生徒の言語活動充実を目的に、熊日新聞社と新聞活用に関する協定を締結しました。この協定により、熊日新聞に掲載された記事や写真を整理したデータベースが安く利用できるようなるほか、教材として使う記事の二次使用が幅広く認められるようになります。

今回の協定締結で倉原久義教育長は、「子どもたちの言語活動能力開発の取り組みの一環として存分に活用したい」と述べました。



協定書を交換する熊日の中西雄一常務取締役(左)と倉原教育長(右)

4/3 読書活動推進功労者表彰おはなしの会 ラブブック

読み聞かせボランティアグループ「おはなしの会ラブブック」が、平成23年度読書活動推進功労者表彰を受賞し、その報告のため福村市長を表敬訪問しました。グループは平成13年に結成し現在7人。地域の小中学校を中心に、幼稚園や老人ホームなどで幅広く読み聞かせ活動を行い、紙芝居や手遊びなど工夫しながら読書の楽しさを伝え続けてきました。代表の中尾ヨシコさんは、「この活動をもっと長く続けていきたいです」と抱負を語りました。



受賞したラブブックの皆さん。左から中村朱貴さん、中尾ヨシコさん、齊藤寿子さん、葉賀文さん

4/1 岩本区で岩本神楽継承上げ会が開催されました

18代神楽連による神楽継承の奉納・お披露目が、岩本菅原神社で行われ、多くの来場者の前で披露されました。市指定無形民俗文化財である岩本神楽は、岩本菅原神社に伝承されている肥後神楽系に属するもので、明治4年から続いており140年以上の歴史があります。

神楽は太鼓2人、笛2人、舞人5人で構成され、8年で交代(今回は9年)。奉納・お披露目は、8座全てが披露されました。



18代神楽連による6番剣舞の奉納

3/26 アンジュン 安重根から贈られた遺墨のレプリカを市に寄贈

韓国独立運動家・安重根(アン・ジュングン)から郷土の賢人・故園木末喜氏に贈られた書のレプリカが、遺族を通じて本市に寄贈されました。園木氏は菊池郡加茂川村砂田(旧七城町)出身で、明治42年(1909年)10月、初代韓国統監だった伊藤博文を暗殺した安重根の通訳として、処刑までの5カ月間、その大任を果たしました。寄贈された書は「日韓交誼善作紹介」(日韓の親善のためにはお互いがよく知り合うことである)と記されています。



遺墨の寄贈に際し、遺族との橋渡しをされた園木馨さん(右・元菊池市文化財保護委員)

3/27～4/1 ようこそ菊池市へ! 福島県の子どもたちと遊ぼう! 0円キャンプスクール

外で自由に遊べず不自由な生活を強いられている福島の子どもたちを、春休み期間中に熊本へ招待しようという取り組みが行われ、福島県の小中学生20人が本市を訪れました。0円キャンプスクール実行委員会が主催するこの取り組みは、参加者負担を0円とするため、活動費用を協賛金や募金などで調達。自然とのふれあいやさまざまな体験学習をとおして、子どもの健やかな心と体を育むことを目的とし、九州と東北との交流も図っています。



じゃんけんゲームを楽しむ子どもたち



1_最初はみんなで自己紹介/2_弾き語りを披露する地元ミュージシャンのれーなさん/3_北中卒業生と福島県の子どもたち

初日にあった歓迎会では、菊池北中卒業生や地元有志の皆さんと一緒にビンゴやじゃんけんゲームなどをして遊び、子どもたちとの親睦を深めました。

期間中、子どもたちは、かぼちゃ収穫体験、熊本城見学、西原村でのキャンプや人力車などさまざまな体験学習や遊びを満喫。自然と人とのふれあいを再確認しながら、笑顔の絶えない6日間を過ごしました。



遠野市沿岸被災地後方支援活動へ参加して

まえだひろき
前田浩規 総務審議員

企画振興課所属
1月10日から3月20日
までの70日間、岩手県遠
野市で沿岸被災地後方支援
活動に携わる

遠野市は、東日本大震災において沿岸被災地の後方支援基地として自衛隊や消防、警察、ボランティアなどの活動拠点となるとともに、国内外からの救援物資の確保や提供と避難された人々の受け入れなど、市民と一体となった支援活動を行ってきました。本市ではいち早く被災地へ義援金をお届けするとともに、遠野市へ職員を派遣し他の自治体や研究機関とともにその活動を支援してきました。3月18日の「東日本大震災・後方支援の集い」では、参加した多くの自治体や各種機関・市民により、行政間の相互補完と連携による被災地支援の重要性が決議され、新たな復興支援へ歩みだしました。今回の「菊池一族の縁(えにし)」を基調とした友好都市遠野市の活動支援は、遠野市はもちろん、参加した自治体との大きな絆へと発展し、今後の相互連携につながるものと思います。被災地は



←「東日本大震災・後方支援の集い」にて受領した盾。これまでの支援に対するお礼として岩手県遠野市から贈られた

発災から1年が過ぎ、がれき処理の遅れや職員の不足、風評被害による経済の停滞など、多くの課題を抱え復興への歩みを始めました。

復興には多くの人たちが被災地に心を寄せ『震災を風化させない』ことが重要です。そのために私たちに出来ることは、被災地へのボランティア参加や旅行、そして、地元産品を率先して買うことがあります。私たち菊池と緑の地でもある東北地方の被災地の復興を支援していきましょう。

Proud!
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

このような万が一の場合に備え、自転車保険に入ることが出来ます。自転車保険はコンビニでも契約できますし、自動車保険など損害保険の特約により契約することもできます。また自転車安全整備士が点検した自転車を示すTSマークというシールには、自分のけがだけでなく相手に対する損害賠償保険まで付いています。

今月は自転車について考えてみましょう。免許が要らない身近な乗り物である自転車、進学や就職を機に利用する人、また手軽で省エネという観点から利用する人が増えています。また、交通事故全体の数は減っているにも関わらず、自転車が関係する事故も増えています。自転車は、被害者になるケースの方を思い浮かべられるのではないのでしょうか。しかし、実際は歩行者にぶつかったり自転車同士は歩行者で重大な傷害を負わせたり死亡させる事故が起きています。多額の損害賠償請求が認められた判決もあります。中高生が加害者になった場合も責任能力は認められており、被害者は加害者の親などに損害賠償請求することが出来ます。

「はい！こちら菊池市消費生活センターです！」
問い合わせ先 菊池市消費生活センター ☎0968(36)9450
平日午前10時～正午、午後1時～午後4時 商工観光課入り口



特に新しく購入した自転車は、乗り始めて1カ月後に購入店で点検してもらいましょう。ねじの緩みなどがあると運転中に外れて大きな人身事故につながることもあります。自分や他人の身を守るためにもぜひ点検をしてください。新しい自転車でも同様です。ブレーキを備えていない「ピスト」などの自転車は、公道での使用は禁止されています。自転車も「車両」ですから道路交通法の適用があります。二人乗りや夜間の無灯火運転などが禁止されています。そのほか車道の左側の通行が決められていて、歩道を通行できるのは「交通状況から見てやむを得ない場合」、70歳以上や13歳未満など例外であることを知っておきましょう。交通ルールを守り安全な自転車使用を心がけましょう。

4/8 平成24年度 菊池市消防団入団式

菊池市消防団入団式は、菊池市総合体育館で行われ、130人の新消防団員が誕生しました。岩木憲文団長が「自らの郷土は自らで守るという使命を深く認識し、訓練に励み、地域の第一線での活躍を期待しています」と訓示を述べました。

新消防団員たちは、緊張感のある式典の中、消防団員としての使命と責任を感じ取っていました。式典の後、消防署職員による規律訓練、小型ポンプの使用方法などの説明を受けました。



岩木団長から辞令を受け取る第1分団の富田浩徳さん

4/6 春の全国交通安全運動 出発式

4月6日から15日までの「春の全国交通安全運動」に伴い、平成24年春の全国交通安全運動出発式が菊池市民広場で行われました。式当日は晴天に恵まれ、交通安全関係団体から多数の参加がありました。式では、菊池保育園の園児たちが「『とまる、まっ、とびださない』のトマトの約束を守ります」と元気な声で交通安全誓いの言葉を述べると、周りからたくさんの拍手があがりました。その後、市街地にてパトカーによる街頭パレードを行いました。



交通安全誓いの言葉を述べる菊池保育園の園児たち

4/13 菊池溪谷山開き

菊池溪谷のシーズン到来を告げる山開きが行われ、関係者など約130人が出席し、シーズン中の安全を祈願しました。菊池溪谷を美しくする保護管理協議会の福村三男会長は、「菊池溪谷は市にとっても大切な財産です。この豊かな自然を市民の皆さんと力を合わせて守り育てていきたい」とあいさつしました。会場では、旅館組合が用意した温泉コーヒーが振る舞われ、菊池音楽協会によるコーラスがあり、溪谷にすがすがしい歌声が響き渡りました。



菊池溪谷の安全を祈願してお祓いが行われました

4/11 長年の環境美化活動 たかきまさやす 高木正康さんに感謝状

菊池公園一帯でゴミ拾いや空き缶拾いなどの環境美化活動を27年間にわたり続ける高木正康さん(片角)に、福村市長から感謝状が贈られました。高木さんの活動は、市民の公共福祉の増進につながるだけでなく、本市へ訪れた多くの人々に好印象をもたらしています。高木さんは、「ゴミ拾いをしていると散歩している人たちに感謝され、『また頑張ろう』という気持ちになります。体が動く限り続けたいです」と思いを語りました。



感謝状を手にする高木さん